

2023年3月期第2四半期 決算説明資料



写真：福井工場

2022年11月10日

デンヨー株式会社

I . 2023年3月期第2四半期決算の概要

取締役上席執行役員 管理部門長 田 邊 誠

II . 2023年3月期通期の見通し

代表取締役社長 白 鳥 昌 一

2023年3月期

第2四半期決算概要

2023年3月期第2四半期実績ハイライト（連結）

ポイント

連結売上高は前年同期を上回るも、利益は下回る。

（単位：百万円）

	2022年3月期 第2四半期		2023年3月期 第2四半期		前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
連結売上高	24,836	100%	28,271	100%	3,434	13.8%
営業利益	1,615	6.5%	1,083	3.8%	△ 531	△ 32.9%
経常利益	1,689	6.8%	1,157	4.1%	△ 532	△ 31.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,173	4.7%	800	2.8%	△ 372	△ 31.8%
設備投資	219		967		748	△ 341.6%
減価償却費	674		606		△ 68	△ 10.1%
1株当り四半期純利益	56.25円		38.64円		△ 17.61円	△ 31.3%
R O E	4.0%	年換算	2.6%	年換算		
1株当り中間配当金	22.0円		23.0円			

製品別売上高の動向（連結）

概況

1. 発電機は 3,986百万円(20.7%)の増加。
2. 溶接機は 361百万円(14.4%)の減少。
3. コンプレッサは 1百万円(0.5%)の増加。

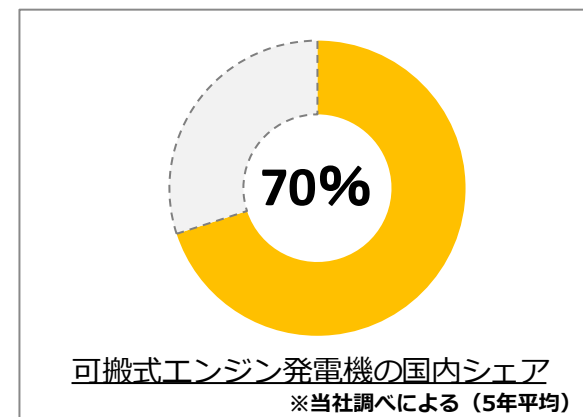
(単位:百万円)

		2022年3月期 第2四半期		2023年3月期 第2四半期		前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
連結売上高		24,836	100%	28,271	100%	3,434	13.8%
製品別	発電機	19,297	77.7%	23,284	82.4%	3,986	20.7%
	溶接機	2,499	10.1%	2,138	7.6%	△ 361	△ 14.4%
	コンプレッサ	383	1.5%	385	1.4%	1	0.5%
	その他	2,654	10.7%	2,461	8.7%	△ 192	△ 7.3%

エンジン発電機（連結）

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比 増減率
発 電 機	19,297 ^{百万円}	23,284 ^{百万円}	20.7 [%]

- 国内は、レンタル市場における需要が堅調に推移。
- 海外は、アメリカ及びアジア市場向けが好調に推移。



静音発電機
マーリエ



運転データ記録機
能付発電機

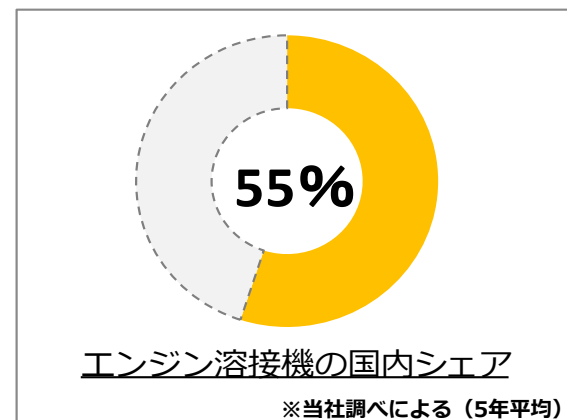
1kVAから1100kVA までのエンジン発電機を製造

- 可搬形発電機
建設現場、土木工事、災害復旧・復興などの動力源
- 非常用発電機（定置形）
防災設備やオフィスなどのバックアップ電源
- 電源車など

エンジン溶接機（連結）

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比 増減率
溶 接 機	2,499 ^{百万円}	2,138 ^{百万円}	△ 14.4%

- 部品不足の影響もあり国内向け、海外向けともに減少。



炭酸ガス溶接機

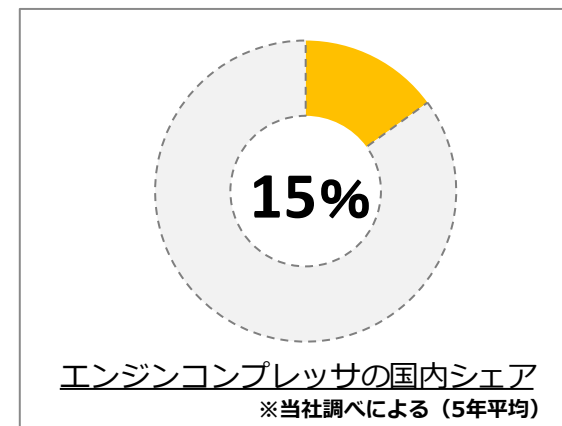
屋外作業の溶接機として当社が日本で初めて開発
軽量鉄骨溶接用の135Aから重量鉄骨溶接用の500Aエンジン溶接機、
およびTIG溶接機、炭酸ガス溶接機など

- ビルやマンション、橋梁などの鉄骨構造物の溶接
- 石油備蓄タンク、パイプラインなどの重要構造物の溶接

エンジンコンプレッサ（連結）

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比 増減率
コンプレッサ	383 ^{百万円}	385 ^{百万円}	0.5 [%]

- アメリカ市場向けが若干増加。



エンジンコンプレッサ



モータコンプレッサ

吐出空気量1.7^{m³/min}から45.3^{m³/min}まで製造

- 道路工事のはつり作業、地盤改良工事
- 山岳道路の土砂崩れ防止のモルタル吹き付け工事
- スキー場の人工降雪機用など

その 他（連結）

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比 増減率
その 他	2,654 ^{百万円}	2,461 ^{百万円}	△ 7.3%

- OEM製品や負荷試験装置が減少。

その他の売上

- 高所作業車
- 負荷試験装置
- 部品売上
- 中古機や仕入商品売上
- 修理売上など



高所作業車

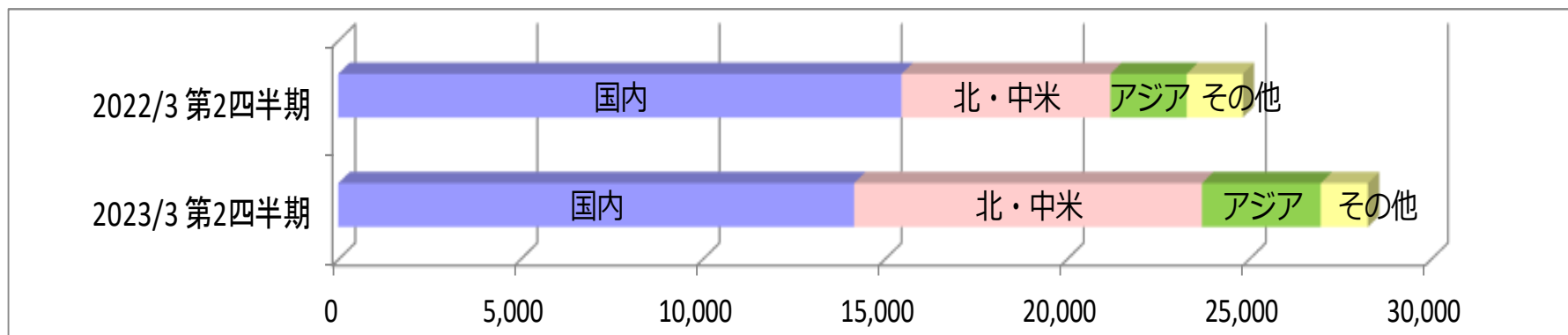


負荷試験装置

地域別売上高の動向（連結）

（単位：百万円）

		2022年3月期 第2四半期		2023年3月期 第2四半期		前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
連結売上高		24,836	100%	28,271	100%	3,434	13.8%
国内売上高		15,465	62.3%	14,164	50.1%	△ 1,300	△ 8.4%
海外売上高		9,371	37.7%	14,106	49.9%	4,735	50.5%
地域別	アメリカ	5,736	23.1%	9,551	33.8%	3,815	66.5%
	アジア	2,095	8.4%	3,258	11.5%	1,162	55.5%
	その他	1,539	6.2%	1,296	4.6%	△ 242	△ 15.8%



営業利益増減の要因分析

営業利益減

売上原価率が上昇。

(単位:百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比 増減
営業利益	1,615	1,083	△ 531
営業利益率	6.5%	3.8%	△ 2.7ポイント

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比 増減
売上総利益率	22.4%	19.2%	△ 3.2ポイント
売上高販管費比率	15.9%	15.3%	△ 0.6ポイント
売上高営業利益率	6.5%	3.8%	△ 2.7ポイント

- 売上総利益率は、原材料コストの上昇が製品価格の値上げに先行している影響もあり低下。
- 売上高販管費比率は、輸送費や営業活動の回復に伴う経費が増加したが、売上増により低下。

連結貸借対照表

概要

1. 流動資産 2,891百万円の増加は、主に仕掛品や原材料・貯蔵品などの増加による。
2. 流動負債 1,349百万円の増加は、主に仕入債務や短期借入金などの増加による。

(単位:百万円)

	2022年3月期 期末	2023年3月期 第2四半期	前期末比 増減額
流 動 資 産	56,872	59,763	2,891
固 定 資 産	23,902	25,285	1,383
資 産 合 計	80,774	85,049	4,274
流 動 負 債	14,269	15,619	1,349
固 定 負 債	2,744	2,959	215
負 債 合 計	17,013	18,579	1,565
純 資 産 合 計	63,760	66,470	2,709
負 債 純 資 産 合 計	80,774	85,049	4,274

連結キャッシュ・フローの推移

概要

1. 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上や売上債権の減少などにより、2,536百万円。
2. 現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べ 1,190百万円増加。

(単位:百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	2,633	2,536
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 307	△ 1,030
I + II フリー・キャッシュ・フロー	2,326	1,506
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 905	△ 399
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	279	83
V 現金及び現金同等物の増減額	1,699	1,190
VI 現金及び現金同等物の四半期末残高	24,613	24,548

2023年3月期の見通し

2023年3月期予想～連結損益の見通し

ポイント

- ・売上高は、600億円と予想。
- ・前提とする為替レートは、110円/ドルから130円/ドルに変更。

(単位:百万円)

	2022年3月期		2023年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高	55,168	100%	60,000	100%	4,832	8.8%
営業利益	3,653	6.6%	3,400	5.7%	△ 253	△ 6.9%
経常利益	4,029	7.3%	3,500	5.8%	△ 529	△ 13.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,753	5.0%	2,400	4.0%	△ 353	△ 12.8%
設備投資	839		3,700		2,861	341.0%
減価償却費	1,361		1,300		△ 61	△ 4.5%
1株当り当期純利益	132.0円		115.8円		△ 16.2円	
R O E	4.6%		3.9%			
1株当り配当金(円)	47.0円		48.0円			

*自己資本は前期末の金額で計算

製品別売上高の見通し（連結）

概況

- 国内向けの需要は底堅いが、建設資材の高騰を背景とした工事延期による影響や一部製品の供給制約を見込む。
- 海外向けはアメリカ及びアジア市場向けの回復を見込む。

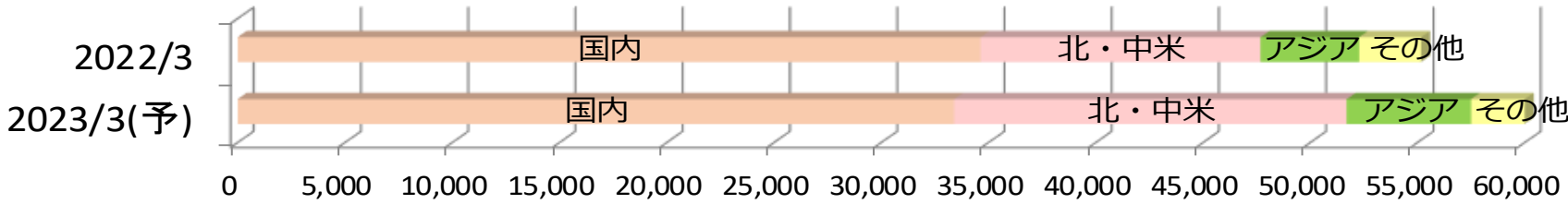
（単位：百万円）

		2022年3月期		2023年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		55,168	100%	60,000	100%	4,832	8.8%
製品別	発電機	43,754	79.3%	49,600	82.7%	5,846	13.4%
	溶接機	4,829	8.8%	4,100	6.8%	△ 729	△ 15.1%
	コンプレッサ	727	1.3%	800	1.3%	73	10.0%
	その他	5,856	10.6%	5,500	9.2%	△ 356	△ 6.1%

地域別売上高の見通し（連結）

（単位：百万円）

		2022年3月期		2023年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		55,168	100%	60,000	100%	4,832	8.8%
国内売上高		34,632	62.8%	33,400	55.7%	△ 1,232	△ 3.6%
海外売上高		20,536	37.2%	26,600	44.3%	6,064	29.5%
地域別	アメリカ	13,052	23.7%	18,300	30.5%	5,248	40.2%
	アジア	4,596	8.3%	5,800	9.7%	1,204	26.2%
	その他	2,886	5.2%	2,500	4.2%	△ 386	△ 13.4%



営業利益予想の内容

営業利益減

原材料コストの上昇などにより、減益を見込む。

(単位:百万円)

	2022年3月期	2023年3月期(予)	前期比
営業利益	3,653	3,400	△ 253
営業利益率	6.6%	5.7%	△ 0.9 ポイント

	2022年3月期	2023年3月期(予)	前期比増減
売上総利益率	21.2%	20.3%	△ 0.9 ポイント
売上高販管費比率	14.6%	14.6%	0 ポイント
売上高営業利益率	6.6%	5.7%	△ 0.9 ポイント

- 売上総利益率は、原材料コスト上昇分を販売価格に反映した効果が現れるのがやや遅れており、低下を見込む。
- 売上高販管費比率は、前期並みを見込む。

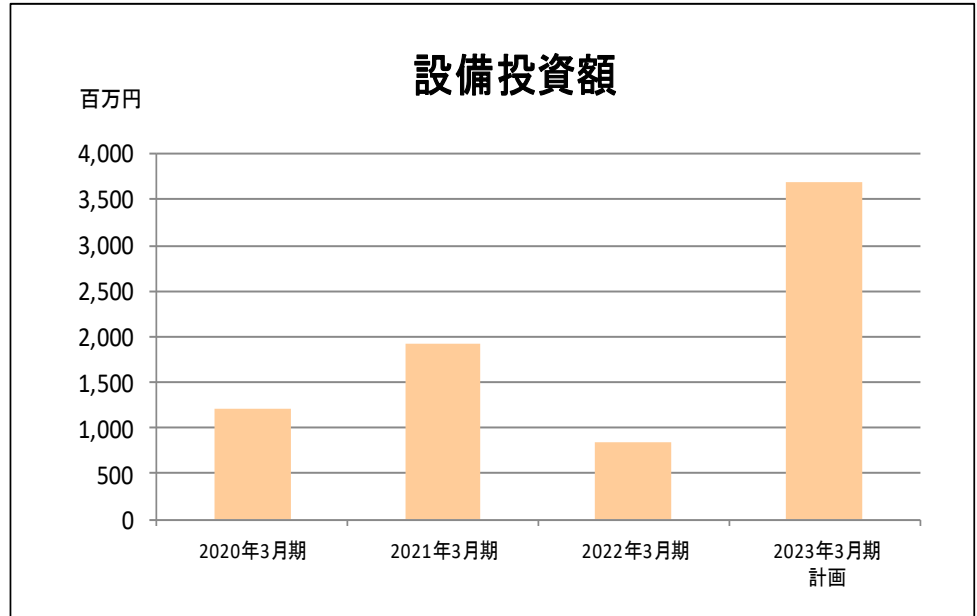
設備投資額の推移

(単位:百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期 計画
設備費	1,201	1,918	839	3,700
主な用途	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 810 ・ニシハツ 20 ・アメリカ工場 290 ・ベトナム工場 10 ・その他 70 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 1,450 ・ニシハツ 110 ・アメリカ工場 30 ・ベトナム工場 20 ・その他 300 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 290 ・ニシハツ 50 ・アメリカ工場 20 ・ベトナム工場 20 ・その他 460 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 540 ・ニシハツ 1,400 ・アメリカ工場 160 ・ベトナム工場 100 ・その他 1,500 (修理拠点等)



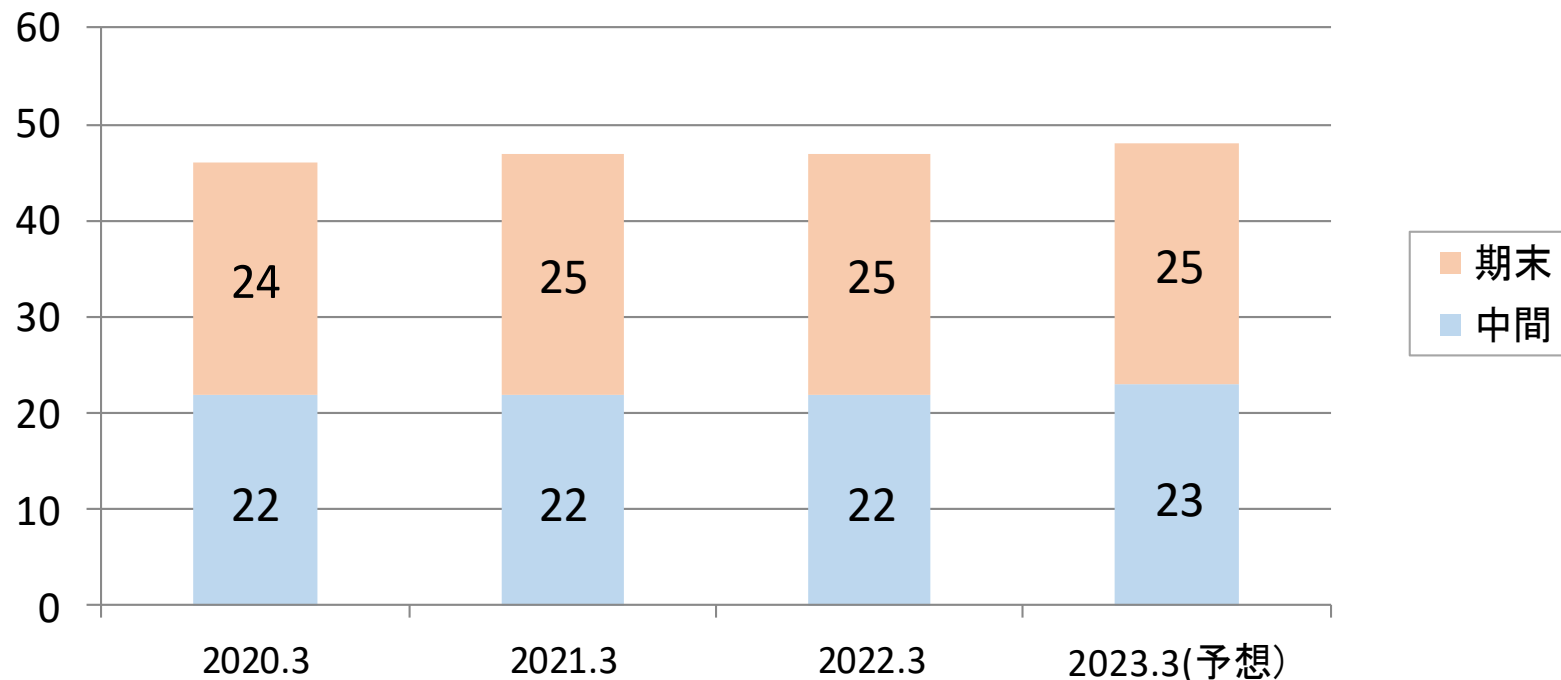
建設中の大型修理拠点(千葉県佐倉市)



利益配分の方針

利益配分: 収益力の向上と財務体質の強化に努めながら、株主の皆様に対する利益の還元をより充実していくことが重要と認識し、業績や配当性向などを総合的に勘案した成果配分を実施

(配当金の推移 21年3月期 47円 ⇒ 22年3月期 47円 ⇒ 23年3月期 48円予想)



今後の事業戦略（第二次中期経営計画の概要）

Denyo 2023 ～Powering up for the future～

基本方針

建設関連分野における高品質パワーソースのトップランナーとしての地位を堅持しつつ、建設関連外・海外向けの比率を高め、環境変化に強い収益構造を実現する。

2023年度・経営目標	
連結売上高	610億円+a
経常利益	62億円
ROE	6.5%以上

SDGs（ESG）取組方針	
E：地球環境の保全に貢献	・環境性能の高い製品の開発 ・廃棄物削減、リサイクル、温室効果ガスの排出削減 他
S：持続可能な社会の実現	・インフラ整備や防災、減災など豊かな社会づくりへの貢献 ・安全安心な製品の提供 他
G：長期的な企業価値の向上	・法令、社会規範、倫理、社内規程などのルール遵守 ・公正な事業活動の推進 他

国内市場戦略

【建設関連事業】

エンジン発電機、溶接機といったトップブランド製品を中心に国内シェアの維持・向上を目指す

- ①顧客ニーズを捉えた新製品の投入によりシェアアップ、市場拡大を図る
- ②営業活動の効率化、高度化を目指す

【建設関連以外の事業】

非常用発電機のさらなる拡販のための土台構築に取り組む

- ①専門知識向上のための教育体制の充実
- ②グループ間の連携強化
- ③製品メンテナンス体制の充実

海外市場戦略

【海外事業】

ターゲットとする高品質市場におけるプレゼンス向上を目指す

- ①市場調査や機能面等の強化による製品ラインナップの拡充を図り、新市場開拓を目指す
- ②各国販売店網の再整備と教育体制の充実により、販売力強化を図る
- ③マーケティング機能を強化し、顧客接点を増やす
- ④定置形発電機のシリーズ化による、市場の継続開拓

経営基盤の強化

【開発】

高品質パワーソースのパイオニアとして、市場をリードする製品開発を行う

- ①市場ニーズを的確に捉え、開発スピードの向上を図る
- ②新機軸製品の開発への対応強化

【生産】

グローバル競争力を備える生産体制を構築

- ①生産現場力の強化やIT化推進により、柔軟かつ高効率の生産体制を確立する
- ②国内生産拠点の整備・高度化を図る

【組織】

多様な人材が活躍できる体制づくり

- ①教育体制の一層の拡充や人事制度の見直しにより、やりがいと働きやすさの両立を目指す
- ②各工程におけるシステム化の推進

カーボンニュートラルに向けた取り組み

デンヨーは、地球環境問題を経営の重要な課題の一つとして位置付け、カーボンニュートラルへ向けた取り組みを積極的に推進してまいります。地球温暖化防止に向けたCO2排出量の削減や大気汚染防止のためのも一つとして、燃料電池をはじめとする水素社会への取り組みが有効であると考えています。



燃料電池式可搬形発電装置

- 環境省「CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」採択
- 燃料電池専用パワーコンディショナーを新たに開発・搭載
- 2021年6月から実証運転開始

想定用途：土木・建設工事、災害発生時の生活電源、テレビ中継や各種イベント 等



水素混焼発電機

- 軽油に水素の混焼率50%で運転
- 軽油のみを燃料とする場合と比較してCO2の発生を50%削減
- 2023年の250kW水素混焼発電機量産化を目指す

想定用途：副生水素を活用した自家消費、停電対策用電源 等

カーボンニュートラルに向けた取り組み



水素専焼発電機

- 水素のみを燃料としCO2を排出しない
- ボリュームゾーンである45kVAクラスの開発から着手
- 2025年以降の市場投入を目指す

想定用途：土木・建設・港湾工事、テレビ中継や各種イベント、レジャー 等



モバイルバッテリー搭載LED投光機

- 騒音やCO2を排出しない
- 着脱できるカートリッジ式のリチウムイオンバッテリーを使用
- 長時間運転可能

想定用途：夜間工事、イベント 等

見通しに関する注意事項

この資料には、2022年11月10日現在の将来に関する前提、見通し、計画に基づく予想が含まれています。
今後の経済変動、競合状況などにより、実際の業績が予測と大幅に異なる可能性があります。

あくまでも、情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。
投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

当社のIRに関するお問い合わせ先

経営企画室 藤本・後藤
電話：03-6861-1178
FAX：03-6861-1185

參考資料

当社の概要

エンジン発電機、エンジン溶接機など野外パワースーツのトップメーカー

沿革：	1948年7月2日	「日本電機溶接機材株式会社」として設立
	1959年	我が国初の高速エンジン溶接機を開発、発売
	1961年	エンジン発電機の生産、販売開始
	1966年	防音型開発 デンヨー株式会社に社名変更
	1983年	東証二部上場
	2000年	東証一部上場

会社規模など（2022/3期・連結ベース）

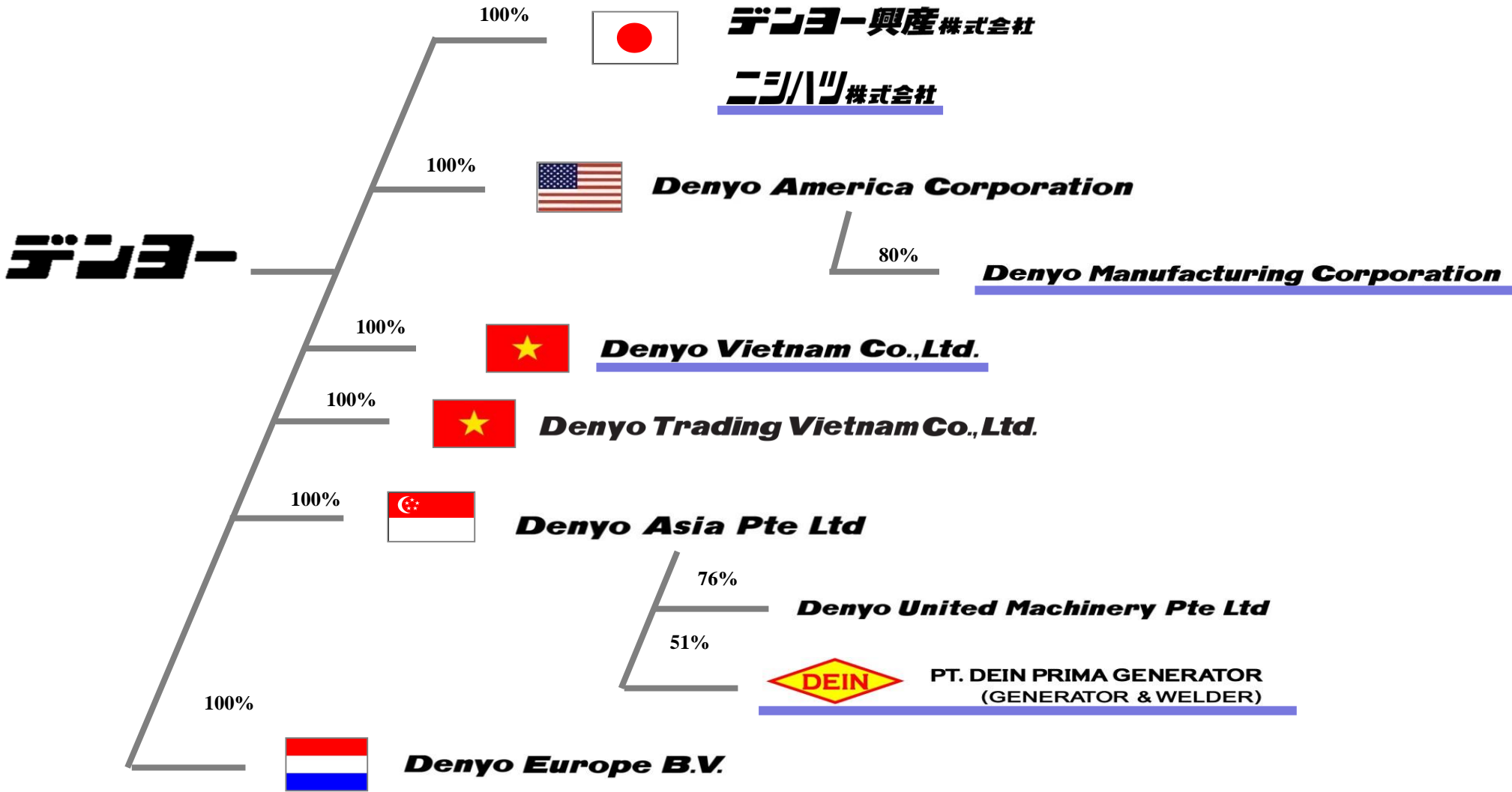
（単位：百万円）

売上高	55,168
うち海外売上高	20,536
経常利益	4,029
親会社株主に帰属する当期純利益	2,753
総資産	80,774
純資産	63,760
時価総額（3/31時点）	37,398
従業員数	1,359人



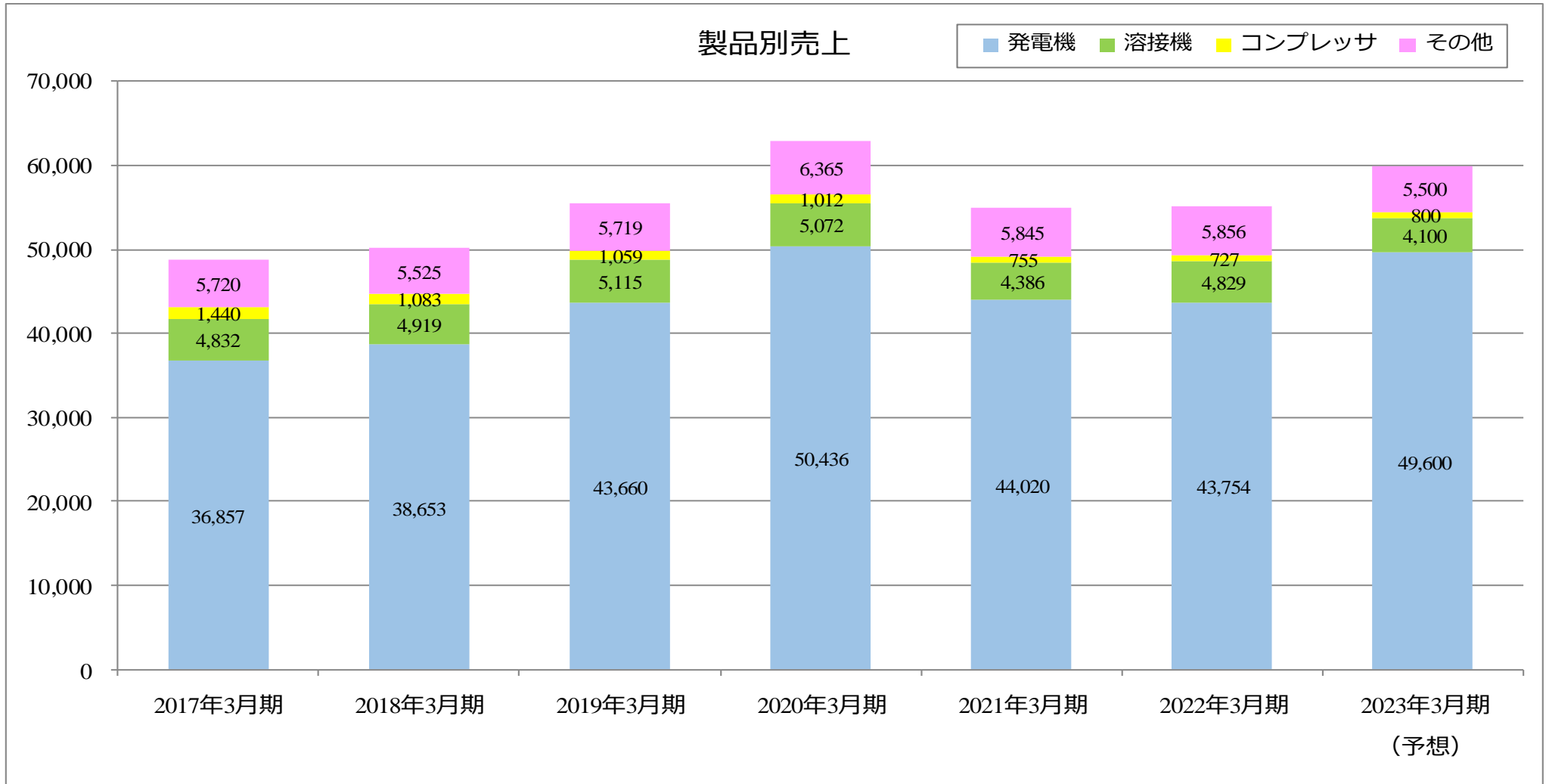
本社（日本橋堀留町）

グループ会社

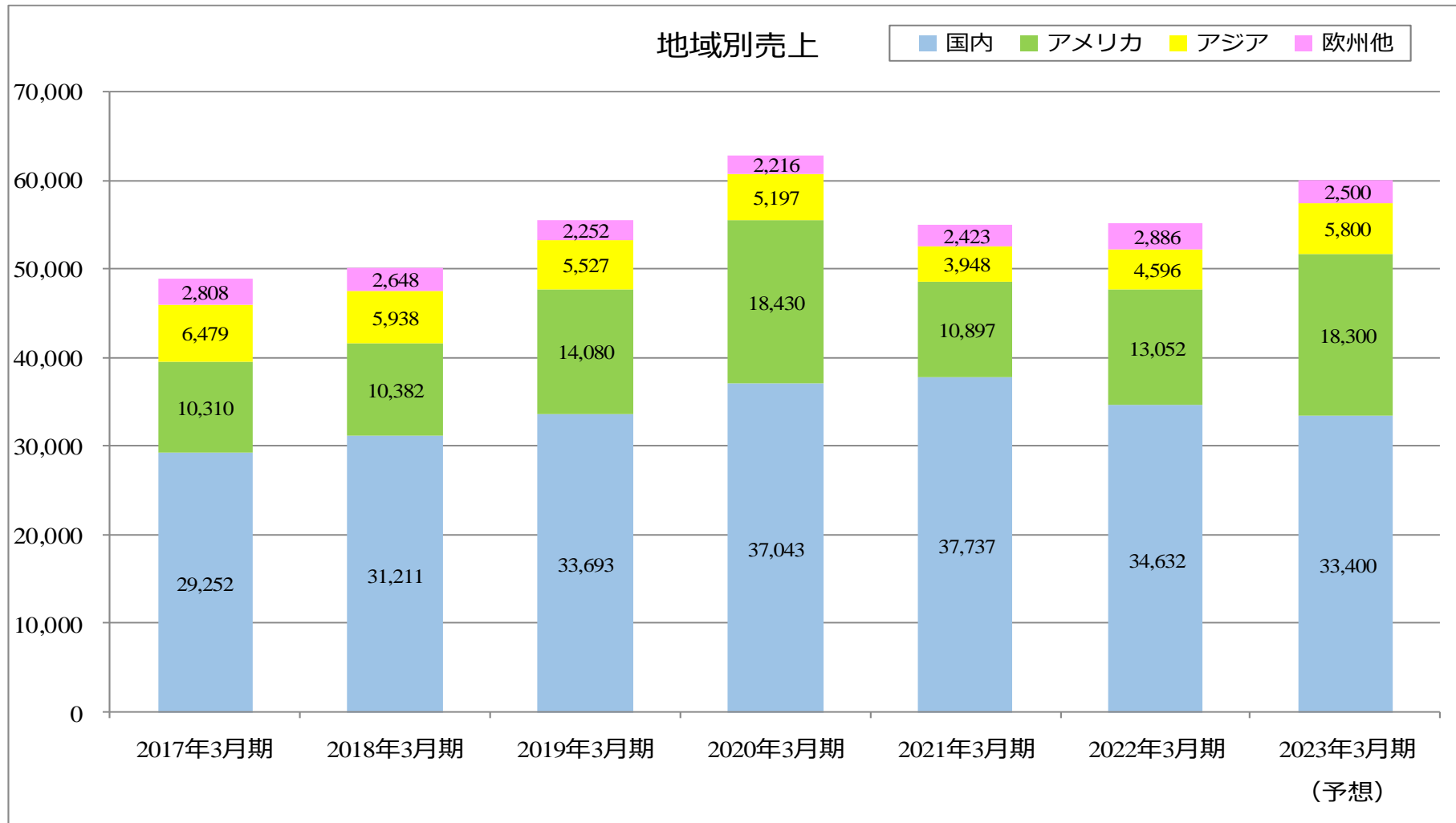


* 1.この他に持分法適用の関連会社「新日本建販(株)」(出資比率15.7%)があります。
 2.下線の引いてある会社は製造会社となります。

製品別推移と予想



地域別推移と予想



過去30年間の業績の推移

